



令和3年度 施政方針

釜石市議会3月定例会の初日、野田市長が令和3年度市施政方針演述を行いました。施政方針演述とは、自治体の長が1年間の政策を議会で述べるものです。市は、この方針の下、本年度の市政を運営します。ここでは、その内容の要旨をお知らせします。

はじめに

東日本大震災から10年という節目を迎えましたが、被災された皆様を始め、地権者の皆様、復興工事に携わった施工業者の皆様など、多くの関係者のご協力と世界中からいただきました温かいご支援に対して、改めて感謝申し上げます。

東日本大震災で犠牲になった多くの市民への鎮魂の思いをまちづくりの出発点に復旧・復興に向けて市民一丸となって取り組んできましたが、震災から10年間で全ての復興事業を終えることはできませんでした。

令和3年度を初年度とする第六次釜石市総合計画では、被災した方々の心のケアなど復興完遂に向けた取り組みを引き続き行うとともに、復興まちづくりに引き続いて市民一人ひとりが夢と希望を持って生き生きと暮らせる持続的なまちであり続けるために、市民協働でのまちづくりに取り組んでいきます。

復興の完遂に向けて

復興は10年という目標のもと、釜石市復興まちづくり基本計画に基づき「住まいの再建」「なりわいの再生」「基盤整備」

を復興の柱と位置づけて取り組んできました。令和3年度は復興に関する全ての工事の完成を目指すとともに、引き続き被災された皆さん一人ひとりが真に復興を実感できるよう復興の完遂を目指します。

新型コロナウイルス感染症対策について

迅速かつ円滑に新型コロナウイルスの接種ができるよう、各医療機関と連携し取り組んでいきます。また、地域の産業経済活動の回復に向けて、関係機関と連携し、効果的な事業者支援に努めます。

第六次釜石市総合計画

第六次釜石市総合計画では、まちづくりの理念として「一人ひとりの幸せの実現」「危機対応と希望の追及」「釜石発の新しい価値観」を掲げています。目指すべき将来像を「一人ひとりが学びあい、世界とつながり未来を創るまちかまいし」多様性を認め合いながらトライし続ける不屈のまち」とし、この実現に向け、3つの基本的考えと5つの基本目標を定め、その具体的な施策の下、まちづくりを展開していきます。

令和3年度の主な取り組み

全市民参加でつくるまち

- ・市民一人ひとりが地域の課題を自分事として捉え、まちについて「ともに考え、ともに活動する」環境の構築に向けた取り組みを推進します
- ・地域住民自らによる課題解決を容易にする仕組みづくりを推進します

多様な連携と交流によるまち

- ・担い手人材の還流により、釜石への多様な関わり方を通じて、新たな関係人口の創出に向けた取り組みを推進します

効率的・安定的な行財政運営ができるまち

- ・新市庁舎の整備について、早期の完成に向けて事業の進捗を図ります
- ・ふるさと納税について、活用状況も広く周知することで、釜石を応援してくれる寄付者との持続的な関係構築に努めます

あらゆる人の幸せをみんなで考えるまち

- ・ライフステージに応じた少子化対策・子育て支援を行います

- ・健康寿命の延伸に向けた生活習慣病の予防や、地域と一体となった介護予防事業を展開します

- ・安心して必要な医療サービスを受けられるよう、切れ目のない地域医療を提供する体制の構築に努めます

- ・住み慣れた地域で安心して暮らし続ける社会を実現するため「釜石版地域包括ケアシステム」の充実に取り組みます

人と自然が共存し安心して暮らせるまち

- ・グリーン社会の構築を目指し、省エネルギー対策やごみ減量化などを推進します

はじめに

東日本大震災から10年という節目を迎えましたが、被災された皆様を始め、地権者の皆様、復興工事に携わった施工業者の皆様など、多くの関係者のご協力と世界中からいただきました温かいご支援に対して、改めて感謝申し上げます。

東日本大震災で犠牲になった多くの市民への鎮魂の思いをまちづくりの出発点に復旧・復興に向けて市民一丸となって取り組んできましたが、震災から10年間で全ての復興事業を終えることはできませんでした。

令和3年度を初年度とする第六次釜石市総合計画では、被災した方々の心のケアなど復興完遂に向けた取り組みを引き続き行うとともに、復興まちづくりに引き続いて市民一人ひとりが夢と希望を持って生き生きと暮らせる持続的なまちであり続けるために、市民協働でのまちづくりに取り組んでいきます。

復興の完遂に向けて

復興は10年という目標のもと、釜石市復興まちづくり基本計画に基づき「住まいの再建」「なりわいの再生」「基盤整備」

未来をつくる人と産業が育つまち

- ・市内路線バス交通の幹線部バスの持続性向上と支線部バスの維持、強化に努めます
- ・令和元年台風第19号により被災した箇所への復旧完了に向け、計画的に工事を進めます

未来をつくる人と産業が育つまち

- ・釜石港の流通拠点化に向け、効果的な集荷、ポートセールス活動に取り組めます
- ・「魚のまち」復活に向けた取り組みの他、農産物の地産地消や林業の担い手確保などに取り組みます

- ・ウィズコロナ、ネクストコロナを見据えた新たな観光振興策を推進します

- ・「しごと・くらしサポートセンター」を活用し、雇用就業支援と移住定住促進、空き家利活用を一体的に推進します

地域と人のつながりの中でみんなが育つまち

- ・ICT教育を推進するとともに、学校、家庭、地域が連携した特色ある教育活動を推進します
- ・スポーツ合宿の誘致やラグ



釜石市小学校対抗タグラグビー大会

ビーメモリアルイベントの開催など、交流人口の拡大に取り組むとともに、高校生など各世代ラガーマンの育成・強化を推進します

- ・橋野鉄鉦山や新たに国の史跡指定を受けた屋形遺跡などを含む本市の歴史や文化に対する理解を深め、郷土愛を育みます

過去に学びみんなが命を守るまち

- ・自然災害に備え、防災意識の醸成や自主防災組織の組織率の向上、防災士の養成などに取り組みます
- ・避難行動要支援者の個別避難計画策定などの取り組みを進めます
- ・迅速かつ的確な防災・災害情報提供に努め、過去の教訓を生かし「自助・共助・公助」による防災まちづくりを推進します

結び

多くの尊い市民の生命と財産を奪った東日本大震災から10年の月日が経ちましたが、復興期間の10年間で大きく変わったことが3つあると考えます。一つ目は、激甚化する豪雨、土砂災害、二つ目は、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル、三つ目は、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化です。

これらは、前提や固定観念に捉われず、多様な変化に対応する大切さ、柔軟な姿勢で学び続けていくことの大切さを示していると考えます。

第六次釜石市総合計画の目指すべき将来像にある「学ぶ」とは「力を新たに身につけ、新たな世界を広げること」であり、この10年間で得た学びを生かしながら、テクノロジーを活用した市政運営に取り組んでいく必要があります。令和3年度を新たな10年の幕開けの年とすべく、全力で市政運営にあたってまいりますので、全市民参加に向けて、市民一人ひとりがそれぞれの持ち場で活躍いただきますようお願い申し上げます。



かまいし未来づくり委員会での議論